

今、迫る脅威にどう対応する！

# 多様な攻撃を防ぐ高度サイバーセキュリティの実現へ



(むらい・じゅん) 慶応義塾大学大学院工学研究科後期博士課程修了。工学博士。1984年東京工業大学と慶応大学を結ぶ日本初のネットワーク間接続「JUNET」を設立。88年にはインターネット研究コンソーシアム「WIDEプロジェクト」を発足し、インターネット網の整備・普及に尽力。「日本のインターネットの父」と呼ばれる。2009年から現職。

**新たな技術を生かす**  
2013年6月「世界最先端IT国家創造宣言」を閣議決定したことで、日本のIT情報技術戦略は一つの節目を迎えました。それまで内閣総理大臣主導のIT戦略本部で決めていた戦略を、すべての大臣が参加する閣議で決めることで、インターネットはすべての領域、すべての人にかかわるものであることを明確にしたといえます。あらゆる分野がサイバー空間につながる一方、脅威に対する認識や正しい対処法の理解は十分とはいえません。事業者がまず取り

慶応義塾大学 環境情報学部 教授 **村井 純氏**

第一人者が語るインターネットと安全対策

サイバー攻撃の多様化・巧妙化が進み、企業には不正侵入防御システム(IPS)や分散型サービス拒否(DDoS)攻撃対策などの早期導入が求められるようになった。すべてのものがインターネットにつながる時代が視野に入中、サイバーセキュリティの見直しや、脅威への備えはどうあるべきか。情報セキュリティ分野のリーディングカンパニーであるセキュアソフトの姜昇旭社長に話を聞いた。



## 急増するDDoS攻撃 出入り口の対策が重要

——サイバー攻撃の現状をどのように見えていますか。  
現在、世界的に急増している脅威の一つはDDoS攻撃があり、最近では、日本でも急増しています。米国ではよく知られているメジャーな攻撃ですが、日本での認知は進んでおらず、DDoS攻撃への危機感や警戒感も薄いことを懸念しています。  
また、標的型攻撃も増加しているように見えています。

## 最適な対策の徹底が企業価値を高める

セキュアソフト 代表取締役社長 **姜 昇旭氏**

(カン・スヌク) 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。2001年マークエニー・ジャパン設立に伴い、代表取締役社長に就任。02年セキュアソフトを立ち上げ、代表取締役社長に就任。14年にはセキュアソフトテクノロジーを設立し、代表取締役社長を兼任、現在に至る。

要になります。しかしながら、コストなどを理由にファイアウォールのみの対策で、IPSやDDoS対策を講じないままでは、例が少なくありません。自分たちの資産やビジネスを守るには自分たちだけで、危機感を持ち、予算を投じて、問題が起きる前に対策を実施すべきです。  
——貴社の出入り口対策には定評があります。  
ネットワークセキュリティ製品である「Sniper IPS」や「Sniper DDX」により、IPSとDDoS対策を提供しています。きめ細かなサポートにも注力しており、24時間365日体制のセキュリティ運用監視サービスを提供。不正アクセスの監視や機器の状態監視のほか、ゼロデイ攻撃に即応できるスピード感が強みです。  
——開発の背景について教えてください。  
サイバー攻撃のトレンドが多様化しているため、様々な攻撃に対して複数の防御策を講じなければなりません。しかし、複数の機器を導入するとコストがかさむだけでなく管理が煩雑になります。そこで「Sniper ONE」は、IPSやDDoS攻撃対策などネットワークセキュリティに必要な機能を一台に統合しました。各機能は専用機並みの性能を発揮できるように開発しており、お客様

て相談ができる、オンリーワンの企業を目指します。  
**多彩な機能を搭載した 統合型ソリューション**  
——新製品もリリースされました。  
今年7月23日に統合型ソリューション「Sniper ONE」を発表しました。従来の主力製品であるSniper IPSとSniper DDXに加え複数の機能を盛り込み、多層防御を一台で実現します。

(参考) 2015年第1四半期のセキュリティインシデント報告件数

| インシデント    | 4月  | 5月  | 6月  | 合計   | 前四半期合計 |
|-----------|-----|-----|-----|------|--------|
| フィッシングサイト | 191 | 144 | 156 | 491  | 466    |
| Webサイト改ざん | 209 | 175 | 265 | 649  | 792    |
| マルウェアサイト  | 56  | 59  | 82  | 197  | 260    |
| スキャン      | 976 | 823 | 643 | 2442 | 2980   |
| DoS/DDoS  | 61  | 3   | 7   | 71   | 32     |
| 制御システム関連  | 0   | 4   | 0   | 4    | 5      |
| 標的型攻撃     | 12  | 21  | 27  | 60   | —      |
| その他       | 116 | 91  | 67  | 274  | 950    |

出所「JPCERT/CC インシデント報告対応レポート(2015年4月1日~2015年6月30日)」  
<https://www.jpCERT.or.jp/ir/report.html>

## 穴をふさぐ取り組みが第一歩に

**IoT時代をけん引**  
世界は様々なモノがインターネットにつながるモノのインターネット化(IoT)時代を迎えようとしています。  
IoTはテレビや冷蔵庫などがインターネットにつながる、その上での新たなサービスを開発するかが問われる世界です。モノづくりはまさに日本のお家芸。高品質で信頼性の高い製品・サービスを求めるエンドユーザーがあり、それに応える技術力を持つ日本の産業界はIoT時代をけん引する存在になり得るでしょう。  
高品質で信頼性の高い製品・サービスは攻撃経路となる穴も少ないため、無理なく高度なサイバーセキュリティを実現できるはず。日本はIoTのモデルを示し、世界を変えるゲームチェンジャーになれると思います。

**人材育成に焦点**  
サイバーセキュリティを担う人材を育てるためには、職業としての魅力を高める必要があります。  
ルウェアへの感染リスクを下げることもできるでしょう。  
雇用の機会を増やし、仕事を正当に評価し、待遇を改善することで、人材を取り合う環境が生まれれば実力ある人材が集まります。  
サイバーセキュリティは社会を支える重要な仕事であることを、広く発信していくことも大切です。サイバーセキュリティに対する社会の認識が深まれば、どんな対策を講じているかが企業や製品を選定の際の一つの評価軸になっていくでしょう。  
今後、小学校の教科書が電子化され、子どもたちが情報端末を持つようになり、初等教育の段階から、サイバーセキュリティに関する知識をきちんと教えることが必要です。  
日本においてインターネットは、阪神・淡路大震災や東日本大震災など社会を揺るがす出来事をきっかけに一層の普及・進化を果たしてきました。その意味で、東京オリンピック・パラリンピックなど大きなイベントを控えた現在ほど新たな発展が期待される時はありません。世界も注目するこの機会を逃さず、日本は安全でインベリションに満ちたサイバー空間の利活用を推進し、力強いサイバーセキュリティ立国を目指すべきです。

**見える化と監視を強化 優先順位を決めて実行**  
——日本企業は、まずどのような対策を講じるべきでしょうか。  
情報漏洩事件は、知らない間に初めて漏洩に気付く例が少なくありません。まず情報システム全体を見える化し、実行した対策が有効に機能しているかを監視することが重要です。怪しいアクセスはないか、情報が漏れていく兆候がないかを常に確認し、問題があればすぐに対処できる態勢を整えておくことが大切です。  
事業継続を観点に死守すべき情報と、それを守る方法を明確にすることが求められます。守るべき情報のために、どの機器をどのように運用するのか、優先順位を決めて取り組む必要があります。  
中小企業など限られた予算での対策継続・更新を求められるお客様のために、当社はこれまでの

**専門職の地位向上を 若い才能が集う環境に**  
——サイバーセキュリティの強化が求められる一方、対策を担う人材の不足が懸念されています。若く優秀な人材を業界に集めるためには、サイバーセキュリティを担う専門職の社会的地位の向上を図ることが大切です。「セキュリティスペシャリスト」や「セキュリティアナリスト」など、国を挙げて専門職としての地位を確立することが必要でしょう。  
待遇の改善も求められます。米国などではサイバーセキュリティを担う人材の年俸は高額です。仕事の価値を正しく評価しなければ人材は集まりません。

**【会社概要 セキュアソフト】**  
2002年8月設立。日本市場にいち早くIPS製品「SecureSoft Sniper IPS」、DDoS対策製品「SecureSoft Sniper DDX」、メールセキュリティ製品「SecureSoft SpamHunter」を発売。国内の主要Slerをパートナーに国内シェアを伸ばしている。15年7月23日には新たな主力製品となる「SecureSoft Sniper ONE シリーズ」を発表。24時間セキュリティ運用監視サービス「Security O.K Service」や、セキュリティ人材の育成などにも力を注いでいる。  
〒150-0011 東京都渋谷区東3-14-15 MOビル2F

セキュアソフト <https://www.securesoft.co.jp/>

広告

企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局